



ジョホール日本人学校 学校だより

# みんなの学び舎

令和7年3月11日

第21号

「修了式 校長あいさつ」

## 令和6(2024)年度 3学期 修了式 校長あいさつ

「白い光の中に山なみは萌えて 遥かな空の果てまでも君は飛び立つ」…みなさんが歌ったこの歌が耳に残っています。先週土曜日の卒業式について少し話します。凜とした空気の中、とても素敵な式になりました。卒業生の返事やふるまいはもちろん素晴らしかったですが、それと同じくらい、在校生の歌や呼びかけは心のこもったものでした。流石J S J…見事な卒業式になりました。まさに「一人一人の心がけ」の賜物です。ありがとうございました。

今日で令和6年度の学校生活が修了します。今、どんな気持ちですか。1学期の始業式でみなさんに「頑張ってもらいたいこと」を六つ話しました。覚えていますか。一つでも覚えている人がいたら嬉しいなあ。では、あらためてもう1度話します。よく聴いてください。

- 1 先生の話をよく聞いて、しっかり**勉強**しましょう。
- 2 笑顔の**あいさつ**をしましょう。返事も大事です。
- 3 **友達**と助け合って、協力して学校生活を送りましょう。
- 4 大変だなと思うことにも、**チャレンジ**しましょう。
- 5 体を思い切り動かして、**元気**な体をつくりましょう。
- 6 日本と**マレーシア**がさらに仲良くなるよう、たくさん学びましょう。

一つでも覚えていた人…ああ、嬉しいなあ。ありがとう。…では、これらの六つのうち、いくつでもいいので、「自分はこの1年、どうだっただろう」と振り返ってみてください。

「勉強は、算数を特にがんばったよ。計算が早くなった」とか「あいさつは前よりよくなったな。先生にもほめられた。」と、振り返った分だけ、指をおってみましょう。いくつ指がおれるかな。一人一人が六つについて学校生活を振り返る時間を今から1分ほどとります。音楽に耳を傾けながら、自分が取り組んできたことやその時の気持ちを思い出してみましよう。(音楽を流す)…この後、小学部・中学部の代表のスピーチがありますが、その時も是非、「自分はこうだったな」という気持ちで耳を傾けてください。

1年間を振り返って、私の感想をいいます。ジョホール日本人学校のよい伝統…授業への前向きな取組、行事への熱心な取組、そして、様々な交流活動など、皆さんに確実に引き継がれていくだろうと私は確信しています。なぜだかわかりますか。それは、1年間頑張ってきた自信と新年度への思いが、今の皆さんの顔つきに見て取れるからです。

今年1年間、授業・行事・交流で皆さんが成長する姿を何度も目にしました。その成長は、次の年度にも必ずつながっていくことでしょう。

みなさんの中には、この3月を区切りにJ S Jから別の学校へ転校する人、また、日本に帰国する人もいます。でもJ S Jで過ごした日々は決して忘れないでほしいと願っています。この学び舎の思い出を、ずっと大切にしてください。

最後になりますがJ S Jは皆さんが成長するための特別な場所…「みんなの学び舎」です。何度でもチャレンジができるステキな場所です。どうかそのことを、覚えていてください。来年度も、ジョホール日本人学校をさらに素晴らしい学校にしていきたいと思います。

私の話は以上です。最後までしっかり聴いてくれて、ありがとうございました。

校長 北村健治

## 保護者の皆様へ

個人面談・校長個別懇談会・教育活動アンケートなどで、貴重な御意見をいただきました。ありがとうございました。そのうちのいくつかのご質問にお答えいたします。

○ 年間を通しての水泳授業や部活動としての水泳部の設置は可能ですか？

→ 水泳の授業は2学期はじめに集中して行う形で実施しています。安全面に十分配慮するために教員を複数配置し、さらに習熟度別の少人数指導を行っています。これは、短い期間でも子供1人1人の泳力を高められるように、個に応じたより丁寧な指導を実現するためのカリキュラムです。他校では通年で水泳を実施している学校もありますが、その多くは大規模校です。専門の講師によるコーチングには経費もかかります。本校では、常時使える体育館を利用し、学習指導要領に準拠した様々な種目を取り入れることで「競技に親しむ体育」をめざしています。また、部活動は価値ある教育活動ですが、日本国内と同様に本校でも縮小してきた経緯がありますので、新たな部の設置は難しいです。ご理解・ご協力をいただければ幸甚に存じます。

○ 小学部の高学年から教科担任による授業が増え、子供たちは専門の先生に教わることで、学ぶ楽しさを感じているようです。今後もこうした形になっていくのですか？

→ 本校は部分的ではありますが、小中一貫教育に近い形で様々な教育活動を行っております。教科内容が少しずつ高度になってくる、小学部の高学年から教科担任を多く設定しているのも、その一つです。教員各自の個性・能力を生かし、小学校籍の教員が中学部の生徒を教えたり、中学校籍の教員が小学部の児童を教えたり、という形で授業の乗り入れも行っています。配置された教員の担当可能教科によって、年度ごとに組み替える形になっておりますので、教科担任制の完全導入にはやや難しい側面があります。そうした点をご理解いただければ幸いです。



← 「カレー曜日②」  
皆、大満足でした！

「引き渡し訓練」  
御協力ありがとうございました。



○ 小学部の部活動について、場所や内容等を子供の実態に応じたものに改善できませんか？

→ 参加人数に対して活動するスペースが十分ではなかったり、参加したいけれど子供の適性に応じた内容がなかったり、等のご意見をいくつか伺っています。これらについては、部活動ではなく、クラブ活動（授業として実施して全員参加・文化的内容も選択可）にしてはどうだろうという方向で検討を進めております。新年度には、新しい形について御報告する予定です。